

様式 C - 7 - 1 該当する研究種目 ... 「特別推進研究(COE)」を除く全ての研究種目

平成 年度科学研究費補助金実績報告書 (研究実績報告書)

1. 機関番号 1 4 6 0 3 2. 研究機関名 奈良先端科学技術大学院大学
 3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 研究期間 平成 17 年度 ~ 平成 18 年度
 5. 課題番号 1 7 7 0 0 1 1 3
 6. 研究課題名 日常生活における5W1H体験の長期記録とその分析手法の確立

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 3 7 9 5 3 2	リガナ 加茂 タユキ 河村 竜幸	情報科学研究科	助手

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
	リガナ		

9. 研究実績の概要(国立情報学研究所でデータベース化するため、600字~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

本研究の目的は、ウェアラブル機器によって5W1H体験を長期間記録し、長期記録データを基に5W1H体験の各情報の基本的な生起パターンや5W1H体験の情報間の基本的な相互関係の分析技術を実現することである。また平成17年度の研究計画は、5W1H体験の長期記録実験用のウェアラブル機器を設計・開発し、また記録された5W1H体験の編集用ソフトの設計を行うことであった。

平成17年度では、ウェアラブル機器の設計・開発を行った。本研究では、5W1H体験を長期間記録するため、市販のカメラやバッテリーを利用可能とする設計・開発方針を採用した。直径7mmの小型CCDカメラ2台を頭部の両こめかみ付近に設置可能であり、カメラの視点方向の微調整・固定が可能なカメラ設置機構を開発した。対角150度の広視野角レンズを設置したカメラが2台存在することで、両腕を撮影中心として日常生活を超広視野角で記録可能である。また、5W1H体験を記録する媒体としてHDDビデオレコーダを採用した。HDDビデオレコーダは映像・音声の記録に特化した軽量のモバイル機器で、映像を連続72時間まで記録可能である。また、市販のモバイル用大容量バッテリーを並列駆動可能な並列化機構を開発した。並列駆動が可能のため、体験の長期記録時に記録状態を維持したまま、バッテリーの交換が可能である。また、バッテリー数に限定されない並列化機構とすることで、1時間以上、1時間毎のバッテリー無交換による連続記録時間の調整が可能となった。これにより、記録・分析したい体験の長さによって、接続するバッテリー数を変更することが可能となり、体験記録実験の目的に合わせて装置の重量を最小化させることが可能である。また、並列化機構はバッテリーを2箇所に分散させることが可能であり、装置の身体装着時の重量バランスの調整が可能である。

成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4 判縦長横書 1 枚)を添付すること。

10. キーワード

- (1) ウェアラブル機器 (2) 日常生活における体験 (3) 体験の長期記録
 (4) 長期記録体験の分析手法 (5) (6)
 (7) (8) (裏面に続く)

11. 研究発表(平成17年度の研究成果)
〔雑誌論文〕 計(0)件

著者名	論文標題		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
		□□□	

著者名	論文標題		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
		□□□	

著者名	論文標題		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
		□□□	

著者名	論文標題		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
		□□□	

著者名	論文標題		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
		□□□	

著者名	論文標題		
雑誌名	巻・号	発行年	ページ
		□□□	

〔図書〕 計()件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	
	□□□		

12. 研究成果による工業所有権の出願・取得状況
計(0)件

工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類、番号	出願年月日	取得年月日